

**目的** 潤滑油は使用時間と共に酸化が進み、色が濃くなる傾向があるため、劣化具合を簡易的に確認できます。

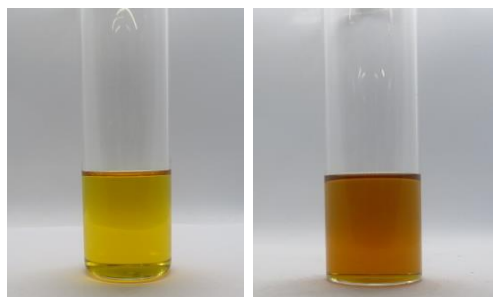
**対象** 潤滑油

**分析項目** 色(ASTM)

**試験結果** ASTM色標準ガラス（淡い色の 0.5 ～ 濃い色の 8.0 があり、0.5 刻み）と試料の色を比較し、色が一致した標準ガラスの数値を試料油のASTM色とします。  
試料の色が標準色の中間にある場合は濃い方の標準ガラスの数値の前に"L"をつけて表記します。  
ただし、試料の色が8.0より濃い場合に限り "D8.0" とします。

実際に試料Aと試料Bを測定した結果を紹介します。

※写真では実物とは多少色の見え方が異なりますのでご了承下さい。



試料A

試料B



純水を入れた2本の比色管の間に、  
試料の入った比色管を入れます。



左1.5、右2.0の標準ガラスと比較すると、  
試料Aは右2.0とほぼ一致することが分かります。  
よって結果は【2.0】となります。



左3.5、右4.0の標準ガラスと比較すると、  
試料Bは左3.5よりやや明るいことが分かります。  
よって結果は【L3.5】となります。

色の変化を測定することで、潤滑油の劣化具合を簡易的に確認できますが、色だけで正確な劣化判断はできないため、他の分析と併せて評価することが重要です。

